

第10回仙台城跡保存活用計画等検討委員会

- I. 開催日時 令和2年1月20日(月)18時00分～20時00分
- II. 開催場所 仙台市役所上杉分庁舎12階 教育局第1会議室
- III. 出席者 (委員) 北野 博司・菊池 慶子・稲葉 雅子・小齋 憲博・
今野 薫・庄司 弘美・馬場 たまき・藤澤 敦・
山田 淳
(宮城県) 関口重樹(教育庁文化財課 技術主幹)
齋藤和機(教育庁文化財課 技師)
(事務局) **【教育局】**
生涯学習部長 佐藤 ゆうこ
文化財課長 長島 栄一
仙台城史跡調査室長 鈴木 隆
主任 関根 章義
主事 佐藤 恵理
文化財教諭 加藤 智仁
専門員 工藤 哲司
【文化観光局】
賑わい創出係主事 比企 新之介
【建設局】
公園整備担当課長 鈴木 江美子
青葉山公園整備室長 川崎 剛

(報道機関) (1社)
- IV. 傍聴人 0名

※会議録の署名について委員長は稲葉委員を指名

V. 概要及び議事内容等

1 開会

2 議事

1. 前回の意見のふりかえり

資料 1、2 に基づき事務局より説明。

委員長： 前回の振り返り及び今回の検討箇所について質問、意見はあるか。

(質疑なし)

2. 仙台城跡の本質的価値について

資料 2～6 に基づき事務局より説明。

副委員長： 資料 5 の 4 番「政宗らしさをうかがわせる特色ある遺構と遺物」の説明だが、最後の段落の傍線部 4 行が上の説明と関係なくいきなり出てくるので、具体的な説明がないと分かりにくい。例えば「歴代の藩主に継承され」というのは、どういう文化を指し、「江戸時代の庶民に及んだ」は、庶民の何に及んでいるのか。最後の「このような文化」とは文化のはじまりを言いたいのか、傍線部より前の文章のことを言っているのか汲み取れない。

5 番目の「仙台の象徴」だが、象徴というのはとても強い言葉なので、何度も出てくると重みを感じられない。最後に「杜の都仙台の象徴としてふさわしい場所です」と出てくれば「象徴」という言葉が効くと思う。また「権威の象徴」という表現については、「藩政の中核施設であって」くらいに留め、現在は仙台市民の象徴的な場所であるというニュアンスをもたせるのが良いと思う。

事務局： 4 番についてはご指摘の通りだ。大広間や造酒屋敷といった政宗の特色をうかがわせるものが歴代の藩主に継承され、幕末まで維持されたということで、継承の部分を中心に考えていた。その中で伊達な文化と日本遺産の観点も盛り込みたいので文章を追加した。言葉の定義が不十分だったので、引き続き検討したい。

5 番の「仙台の象徴」については、言葉を整理して、言葉が活きるように検討したい。

4 番目の最後のところだが、政宗らしさを謳う項目なので、日本遺産のストーリーをこの部分に持ってきてもいいのではないかと考えて付け足した。ただ、「遺構と遺物」と 4 番目の表題で言っているので、話が飛躍したように見えるかもしれない。

この辺りは他の委員方からもご意見をいただいて考えたい。

山田委員： この表題のチャレンジはとても良いと思った。どう書くかは難しいが、伊達政宗が育んだ様々な文化が歴代の藩主によって継承されていった。例えば、業績の一端として、サン・ファン・パウティスタ号出帆などのような何かしらの具体性を書き添えるなどの工夫をすることで伊達政宗の特性を豊かに表現できる。政宗を知らない人でも分かるような文章にしてほしい。

3 番に関してはいつ頃かを具体的に記してもらおうと他の城と比べることができ、対比するものがあると、より貴重さがわかるように感じた。

委員長： 本質的価値は文章で説明するものではないので、今議論している説明については別の部分に日本遺産の仙台城を含めた伊達文化のストーリーと関連付けて書けないか。ここに書くと違和感があるので検討して欲しい。

今野委員： 今までの話の続きになるが、4 番は少しシンプルに表現してもいいのではないか。例えば 8 行目からの「公的空間～できます」を取るとスムーズに読める感じがする。最後の 4 行も、「従来の伝統を重んじつつも」や「歴代の藩主へも継承され」、「江戸時代の」といった装飾を取るとシンプルに読み流せると思う。

稲葉委員： 5 番は「仙台の象徴としてふさわしい場所です。」とあると、住んでいる人も共感できるし、観光客を案内するにしても、観光客が自分で行先を考えるにも、まずは仙台城跡となる。そういった観光的な意味も含め、訪れる人々にとっても重要な場所だと分かるようにするのがいい。

事務局： 5 番については要素として活かしきれていない部分はまだある。一つは天然記念物であり、その動植物だ。その辺りが新しい魅力なので、整理し取り入れたい。

馬場委員： 5 番は「仙台の象徴」ということで、かなり大きなタイトルが掲げられている。その中で具体的に象徴となるものが表現できていれば良いが、言葉が足りないのか、上手く表現できていない。タイトル自体が少し大きいのではないか。

藤澤委員： 構成の整理は前回よりすっきりしたと感じる。この方向で詰めると良いと思う。その上で気になるのは、遺構や城郭構造は触れられているが、出土遺物については政宗期のものしか出ていない。発掘調査では、政宗期以降の時期のものが遥かに多いのに、それが本質的価値の中には出ていないので検討して欲しい。例えば 3 番で、使われ方に応じたさまざまな出土遺物もあると書くとか、4 番で政宗を起点としてその後、様々なものが江戸時代の庶民に広がっていったというような書き方もある。

委員長： 私からは3点ある。1点は1、3番が全体的城郭構造の話なので、1番の後に3番が来て、その後に2番の本丸石垣の変遷に入った方がすっきりする。

2点目は造酒屋敷の解釈がまだ定まっていないということだが、計画策定までに結論が出るのかどうか。解釈の話なので、文献上、政宗が奈良から職人を招いたこと、その職人の流れを汲む酒造りの施設が城内にあるということで留めても良いのではないか。

3点目は5番で天然記念物青葉山が「手つかずの自然」と書いてあるが、これまでも倒木があれば処理されてきたし、手をかけてきたからこそ残ってきた。事実か見極めて書かないといけない。

事務局： 1点目の順番は、ご指摘のとおり変更する方向で検討します。

2点目の造酒屋敷は、今6年間の発掘調査の総括を行っているが、遺構で政宗期に遡るものかはっきりわからない。遺物で、酒造りに関わった口径80センチくらいの大型の「垂壺」と呼ばれる甕の破片が数個出ており、その年代は16世紀の後半から17世紀前半と思われる。

3点目の「手つかずの自然」は確かに違和感があり、適当な表現ではなかった。明らかに人工的な要素が加わった御清水を取り上げたいので、表現を変更したい。

小齋委員： 5番の「仙台の象徴」というタイトルに違和感がある。

委員長： 「仙台の象徴」には委員のみなさんも違和感があると感じている。都市という言葉を入れて「都市文化の象徴」や「都市仙台の象徴」にすると、他の価値とはバランスが悪いが、本文にあるように近世城下町から近代都市への流れを示せるので良いかもしれない。各委員からの指摘のように、内容に合わせて言葉を足してもいいのでは。

多くの城跡の整備計画では、近世に城跡が機能していた時代の要素を本質的価値とするが、5番では城跡が持つ近代都市としての価値も表現され、仙台市としての一つの決意も入っており共感が持てるので、そこは活かしてほしい。

資料6では、「全体的課題」が箇条書きで列挙されているが、「保存面での課題」と「活用面の課題」に分け、それぞれに見出しをつけて欲しい。

庄司委員： 課題はハード面だけでなく、ソフト面に関しても触れてほしい。ハード面をきっちり整備してほしいが、市民が足を運ぶにはそこにあるものの良さをアピールして、学びの機会を提供し、現地での発掘調査成果を公開するなどの機会が増えていけば興味関心が広がると思う。

委員長： 「学びの機会の提供」というのが全体的課題の一つであるというご意

見です。

副委員長： 資料3に「学び」の役割と課題が書かれているが、資料6のように整理されると資料3と資料5の関係でどう課題が見えてくるか分かりにくい。

委員長： 羅列であっても全体を整理してほしいということだった。

事務局： 「全体的課題」は、保存や活用に分類して整理し直したい。

稲葉委員： 「全体的課題」とは項目の1～5番までの全体に関わる大きな課題という意味なのか。それとも、1～5番のどこに入れるべきか判断が難しいものという意味なのか。

事務局： 全体的価値に関わる、個別に限定できない仙台城跡全体の課題という意味だ。

稲葉委員： 「全体的課題」と言いつつ、内容は個別的になっているものもある。

今野委員： 歴史遺産、日本遺産との連携は具体的にどんな中身になるのか。それを課題として取り上げている意味は何か。

事務局： 日本遺産を構成する要素は複数の市町村にまたがっているが、仙台城とそれらの歴史遺産と連携、関連性の説明や活用がまだ十分ではないという観点から課題とした。

委員長： 実際の整備は空間的ゾーンごとに「こんな整備が必要だ」と検討するとイメージしやすいが、文化庁からそれぞれの本質的価値ごとに課題を整理し、その課題を解決するための基本的な方針を書くよう指導があるため、このような整理の仕方をしているのだろう。

事務局： 理想的なかたちで整備を行うには、整備によって何がしか課題の解決がなされることが必要で、それを短期的に実施できるものと長期的に実施するものという分け方が出て来る。それを整備基本計画の中で提示にしていくことになる。

日本遺産に関しては、宮城県により各地に統一した説明板などを設置したが、今後は地元の関係市町村だけで運営してほしいと言われているので、日本遺産「政宗が育んだ伊達な文化」という一つの枠組みでの連携を考えていく必要があると考えている。

委員長： 今後、具体的な整備計画を作る中でもう一度整備の方針と課題が対応しているかをフィードバックしなくてはならない。

馬場委員： 「新総合計画」と照らし合わせると、整備基本計画には天然記念物や自然保護という単語は入っているが、自然環境とか、都市の環境といったような環境という文言が見受けられない。

事務局： 「新総合計画」は今検討している最中で、今後内容が変わることがある。新総合計画の今後の進捗を見ながら、新総合計画と齟齬がないよう

にしたい。馬場委員ご指摘の環境という視点は、整備基本計画に用語として取り込みたい。

委員 長： その際は「史跡仙台城跡にふさわしい植生環境の保全」や「植生保全」といった言い方にしてほしい。

藤澤委員： 先ほど稲葉委員が言われたように、「全体的課題」が5つの項目全体に共通するのであれば、内容を整理し、大きな課題として書くか、或いは大きな項目を3つほど立て箇条書きにするかに整理すべき。

全体的課題としては、まず史跡を環境も含めて良好に維持管理すること。それから、調査を踏まえて明らかになったことを分かりやすく表示する。そしてそれを使ってイベントでの利用や日本遺産との連携で活用していく、と整理し、必要であれば、具体的な内容を箇条書きにした方が良いのではないか。

委員 長： 分類と階層立てて整理した方が良いという意見だった。

5番の仙台の象徴の中では仙台城が廃城以降付加された昭忠碑や忠魂碑などを将来どうするのか。保存活用計画での整理と整備基本計画での課題の整合性がなければならない。

事務局： 昭忠碑等の近代の構築物については史跡の本質的価値を構成する諸要素以外の諸要素としており、本質的価値を構成しないと位置付けている。ただ、すぐ撤去や壊すのではなく、整備計画の中で検討していきたい。

委員 長： ああいうものも仙台市民の思いの結晶なので撤去等は難しい。5番ではそういう要素を謳っているが、実際にはモノとしてそういう構造物は無い方が良いという話なので、市民の思いと矛盾しなければ良いのだが。

藤澤委員： 『史跡仙台城跡保存活用計画』135頁の文化庁のマネージメント支援事業報告書から引用している中に、本質的価値の他に好影響を及ぼすものであれば、積極的に使っていくと書いている。明治以降にできたものであっても、城のシンボルになっていけば、むしろ好影響を及ぼすものとして評価して使っていくことは可能だと思う。あとは具体的に個別化していく必要がある。

委員 長： 今後の整備に向けて各委員からの希望を聞いておきたい。

山田委員： この委員会の意見だけでなく、パブリックコメントなどの市民の意見も積極的に取り入れて計画を構成してほしい。

委員 長： 現実的には、パブリックコメントを実施する頃にはほとんど計画案が固まってしまっているかもしれない。

山田委員： 結果ありきではなく、パブリックコメントや各委員からの意見を踏まえた上で検討を進めることが大事だ。

藤澤委員： パブリックコメントに関しては、保存活用計画策定時に整備に関わる

具体的な提案もたくさんいただいたので、今後具体的な整備内容を検討する参考にすべきだろう。

これだけ大きな遺跡を整備しようするには、ビジュアルも含めてわかりやすく全体が俯瞰できるような形にしてほしい。また、簡略版は「これがこうなったらこんな歩き方もできるだろう」とか「この部分なら自分も関われそう」と関心を持っている方の想像が膨らむような方向を目指して欲しい。そのためには、こう整備するとここに繋がっていくという認識が大事だ。

馬場委員： 計画の期間が長いので、小規模でも市民を招くワークショップや講演の機会があると思う。そういったところで市民の意見をもらい、どういうところに関心があるか聞くことができると思う。

昨年秋に参加した“山羊サミット”で、南アルプス市文化財課が史跡内除草のため NPO から山羊をレンタルしたところ、除草効果以外に小学生の環境教育として見学に來たりと想像以上の効果があったという報告を聞いた。そうした他部署や他団体と連携すると、予想外のアイデアが出てくると強く感じた。

稲葉委員： 「全体的課題」や課題に対する対応方針は史跡を管理する仙台市で考えることだと思うが、課題をどう解決するかは我々民間も一緒に考えていけると思う。これまで観光客を誘導するとき青葉山全体という意識は少なく、仙台城址をピンポイントで案内することが多かった。仙台の象徴として青葉山全体の自然と一体になった城郭という観点からどのように観光客を誘導すれば良いかを民の立場で考えていくことも必要なのではないか。そのためには、防災に配慮した城内環境の実現や外国人來訪者や障害者來訪者への対応などの課題を示してもらえると我々市民がどうすべきか考えることができる。

「文化財」というととても難しいイメージがあり、お客様の中にはそんなに詳しいことは知りたくないという方も多い。簡単なクイズなどを手掛かりにして、2日目、3回目に来るときには観光客の方がもう少し難しいことを知ろうというステップアップ出来る仕掛けが作れたらと思っている。

委員長： 行政だけでは考えが硬直化していく可能性があるので、民間の方々と連携して活用のアイデアをもっと作っていく必要がある。

小齋委員： 昨年実施した交通量調査の結果を公表するのはいかがだろう。パブリックコメントや大手門再建運動等々注視している市民の方々にも課題を投げかけることで、むしろ跳ね返りがきて、具体化されていくのではないか。

委員長： 交通量調査の結果は出ているのか。

事務局： 今まとめているところだ。

今野委員： 今の時代は地域を支える人材がどんどん少なくなり、若い人たちの関心が変わってきている。そういう方々に仙台のシビックプライドをずっと継承していくには、学びの機会の提供といった活用事業を上手く活かしていけると良い。

庄司委員： 情報を一般市民に積極的に公開してほしい。情報通の人は学びの場に結構参加されていると思うが、やはりまだ知られていない気がする。歴史の好き嫌いではなく、仙台に住んでいるので仙台の良いところを見れるように参加しやすい行事があると感心が広まっていくのでは。

副委員長： 一つは保存活用計画に対して出されたパブリックコメントに関してであるが、整備基本計画で検討すると回答した意見を確認し、市民がどういうことを希望しているのかを本委員会で共有して考える時間が必要だ。

二つ目は、仙台城に関する広報やイベントが地味で分かりにくいように思われる。伊達家の歴史や歴代藩主に関する講座は大変人気があり、多くの受講生が集まり関心の高さがうかがわれる。仙台城を面白く広報して、仙台城フェアのようなお祭りを学生や大学と共同して行ったり、みんなで歩く企画を増やすことも必要なのではないか。

三つ目は自分の反省なのだが、自然豊かな青葉山の中にできた城と言いながら、学生を植物園までは連れて行っていない。城の全体構造を見るように促し、仙台の発祥の地であることを考える機会を増やす努力をしなければならない。

山田委員： 整備基本計画を立てることは、我々のゴールではなくあくまでスタートでしかない。それをどうやってしっかり実行していくかが大事で、5年、10年後にこの計画があつて良かったと評価されるぐらいの気概をもって話をしていくべきではないか。

委員長： それぞれの立場から課題を出していただいた。それを具体化するのがこの整備基本計画である。市民が関心をもったときにやっていることが全然分からないということがないように視覚的な景観整備と市民が関心を寄せるようなことを優先してやってほしい。

事務局： 今後人口が減っていくことは間違いない。そうなると国の税収も当然減っていく。その時に遺跡の整備や環境の維持、新事業の運営を行うには、国と一体となって取り組んでいかないと上手くいかないであろうと考えている。決して作って終わったということのないように、焦点の定まった計画をこの委員会で作っていきたい。

3. その他

事務局より次回予告

宮 城 県： この先、整備計画が整備の設計など具体的な整備に入っていくと、ハード整備は制約もあるので、皆様からいただいた意見をどこまで反映できるのか。その整備を進めていくのと並行して具体的な活用のアクションプランと活用方法を仙台市でも十分に議論していく必要があるだろう。県としては仙台市と協力しながら、仙台城跡を保存し活用していくことができるように努力していきたい。